

デイサービスに求められるニーズの変容に関する考察

～2号被保険者の事例を通じて～

[梓の里デイ概要]

デイサービスセンター梓の里
山梨 隼樹

- ・静岡県下田市加増野181-1
- ・1995年(平成7年)12月開設
- ・平成30年6月末日現在
59名登録
- ・ご利用者は稲梓地区の方が多く
総人口約2300人
その内高齢者人口約1040人
後期高齢者人口約600人



ふじのくに型福祉サービス

静岡県が独自に取り組む障がいの有無、老若男女問わず
介護サービスの提供を行っていかうとする考え方

- ①居場所
 - ②ワンストップ相談
 - ③共生型福祉施設
- の3つを重要な要素として定義している

発表に際して

1名の40代男性のご利用者様(以下A様)の事例
を通して考察を行う

A様

男性、40代、介護度5
1歳の時、不慮の事故により硬膜下血腫発症
後遺症として目が見えなくなり、右半身麻痺
全ての事柄に対し全介助必要



利用開始当初の課題 (利用開始～半年経過)

- ・身体清潔の保持
- ・ご家族様の負担軽減
- ・閉じこもり防止

①座位を保つ事が難しい

②半日利用にて過ごされる事が多い

利用開始当初の課題 (利用開始～半年経過)

- ・身体清潔の保持
- ・ご家族様の負担軽減
- ・閉じこもり防止

①座位を保つ事が難しい

→リグライニング式の車椅子を使用し、座位を保てる様対応

②半日利用にて過ごされる事が多い

→リグライニング式の車椅子を使用し、座位を保てる様になり
デイサービスの環境にも慣れてきたため1日利用となる

利用開始より中期
(半年～1年経過)

- ①入浴介助の衣類着脱時、不安見られるためか声掛けを行うものの身体が強張ってしまう様子見られる

- ②他ご利用者様が声を掛けて下さる機会があるものの、反応はほとんど見られないことが多い

利用開始より中期
(半年～1年経過)

- ①入浴介助の衣類着脱時、不安見られるためか声掛けを行うものの身体が強張ってしまう様子見られる
→職員からの声掛けにより手足を伸ばして下さるようになり身体の可動域が広がる

- ②他ご利用者様が声を掛けて下さる機会があるものの、反応はほとんど見られないことが多い
→よく声を掛けて下さるご利用者様の近くにて過ごして頂き、他ご利用者様に慣れてもらい、反応見られる様になる

利用開始より現在の課題
(1年経過～現在)

- ・他ご利用者様からの声掛けに反応見られるようになったものの、発語などの具体的な反応が少ない

利用開始より現在の課題
(1年経過～現在)

- ・他ご利用者様からの声掛けに反応見られるようになったものの、発語などの具体的な反応が少ない
→声掛けの際に手を動かす、掛けて頂いた言葉を反復して耳元で話し掛ける等のアプローチを行う様にした。

利用開始より現在の課題
(1年経過～現在)

- ・他ご利用者様からの声掛けに反応見られるようになったものの、発語などの具体的な反応が少ない
→声掛けの際に手を動かす、掛けて頂いた言葉を反復して耳元で話し掛ける等のアプローチを行う様にした。
他者からの声掛けに対して手を動かす、発語を示す等これまで見られる事のなかった反応がみられるようになった

利用開始時より現在までに生じた主な変化

- ①利用開始当初と比較して体重が増加し、1日利用する事ができる体力が付いた
(BMI値:平成29年4月13.7→平成30年5月17.5)

- ②他者からの声掛けに対して「おはよう」といった挨拶や**笑顔**を多く示して下さるようになる

- ③自宅では色々な事柄を要求する声掛けが増え、病院に定期健診に行くと「**笑顔**が多くなり、表情が豊かになった」と言われるようになる(A様のご家族様より、自宅での様子)

平成30年6月現在の様子



現在行っている取り組み

①職員による積極的な声掛け



②他ご利用者様からの声掛けを促進



A様の事例を「ふじのくに型施設」を目指すための契機として今後も多様なご利用者様に対応し、様々な状況に対して柔軟な姿勢を持ち対応を行っていき、共生型施設となれるよう今後も様々な取り組みにチャレンジしていくことが出来たらと考えています

平成30年8月20日
ご清聴ありがとうございました